

教員養成大学附属図書館における図書館利用教育の実態

瀬田 祐輔

1. はじめに

本稿は、研究プロジェクト「教員養成大学における図書館利用教育の検討」の一環として行った図書館利用教育に関する調査の報告である。

本研究プロジェクトは、図書館活用能力を具えた教員を養成するための図書館利用教育のあり方を検討することを目的とするものである。検討のための基本的な材料として、まず現在の教員養成大学において行われている図書館利用教育の実態（傾向あるいは実践例）をつかんでおかなければならない。大学図書館における図書館利用教育の実態調査については、既に大城善盛¹⁾、毛利和弘²⁾、丸本郁子³⁾によるものがある。しかしながら、これらの調査は対象を教員養成大学に絞ったものではないため、教員養成大学に特有の事情まではつかむことができず、また、全体の実施状況をとらえるための調査であるため、個々の館の図書館利用教育として他と比較しつつ検討することができない。

そこで本稿においては、わが国の教員養成大学の附属図書館に対して図書館利用教育に関する聴き取り調査を行うことにより、その実態をより詳細にとらえ、明らかにすることを旨とする。また、ガイダンス／オリエンテーション、及び、ガイダンス／オリエンテーション以外の利用教育または利用支援を中心に扱い、全学オリエンテーションの一環としての図書館ガイダンス／オリエンテーションの類については、各館の図書館利用教育（ケース）の記述において触れるにとどめることとする。

なお本稿における用語「図書館利用方法」、「情報探索方法」、及び、「情報表現方法」については、日本図書館協会図書館利用教育委員会「図書館利用教育ガイドライン：大学図書館版」⁴⁾における5つの領域のうち、それぞれ順に「印象づけ」・「サービス案内」、「情報探索法指導」、及び、「情報表現法指導」に相当するものとする。

2. 調査方法

日本の教員養成大学の附属図書館における図書館利用教育の実態を把握するために、各大学附属図書館の利用教育担当職員（多くはサービス担当職員）を対象として、図書館利用教育に関する実践について聴き取り調査を行った。その方法は、以下のとおりである。

- ・調査内容：2004年度または2005年度における、1) ガイダンス／オリエンテーション（図書館主催、教員からの依頼による開催など）の実施状況、2) ガイダンス／オリエンテーション以外の利用教育または利用支援の実施状況、及び、3) その他図書館利用教育に関する事項
- ・調査範囲：日本の教員養成大学の附属図書館の全て（但し北海道教育大学については札幌館（札幌校の附属図書館）のみ）

※調査年度

- ・2004年度分調査：京都教育大学附属図書館，奈良教育大学附属図書館（当時），兵庫教育大学附属図書館，鳴門教育大学附属図書館，大阪教育大学附属図書館
 - ・2005年度分調査：上越教育大学附属図書館，宮城教育大学附属図書館，福岡教育大学附属図書館，北海道教育大学附属図書館（札幌館），東京学芸大学附属図書館，愛知教育大学附属図書館
- ・調査期間：2005年3月から2006年3月まで（うち10日間）；1館あたりの調査時間は150分
- ・調査への対応状況：対象館数11に対し，対応館数11，有効回答館数11（有効回答率100%）

3. 調査結果

3.1 結果の概要

1) ガイダンス／オリエンテーション

開催主体により，①図書館主催，及び，②教員の依頼による開催に分けることができる（但し，大阪教育大学附属図書館におけるガイダンス／オリエンテーションについては，このことはあてはまらない。詳細は3.2節を参照のこと。）。ここで，教員の依頼による開催とは，教員が図書館に依頼し計画・実施される場合のみでなく，図書館が計画し開催する形であっても，教員の意思により実施が決定される場合を含むものとする。

①図書館主催

<内容>

「図書館利用方法」に相当するものをほとんどの館において取りあげており（【10/11館】），また「情報探索方法」に相当するものをすべての館において取りあげている（【11/11館】）これらに加えて，内容として「情報表現方法」までを取りあげている館は1館のみみられる（【1/11館】）。

「図書館利用方法」については，館内案内，資料の利用方法を全館において取りあげており（【10/10館】），さらに多くの館においてはOPACの利用方法を同一回に併せて取りあげている（【7/10館】，但し説明／紹介のみに止まる館が多い）。OPACの利用方法を同一回に取りあげない館も，同時期開催のガイダンス／オリエンテーション（同一名称の選択式あるいは別名称）において，OPACの利用方法を取りあげている（【2/10館】，説明のみでなく実習を行う館が多い）。

「情報探索方法」には，総論，または，各論に相当するものが含まれており，「情報探索方法（総論）」については全ての館が，「情報探索方法（各論）」についてはほとんどの館が取りあげている（順に【11/11館】【10/11館】，但し総論／各論を厳密に区分できないオーダーメイドの1館を含んでいる数であるため，以下においては母数から除いて扱うことがある）。

「情報探索方法（総論）」については，情報探索の基礎（ツールの選択から情報の入手までの一連の流れ），図書検索ツール（自館OPAC，Webcat）の利用方法，及び，論文検索ツール（NACSIS-IR／CiNii）の利用方法を複数の館が同一回に取りあげている（【5/10館】）。この内容の全てを同一回に取りあげない館も，同時期開催のガイダンス／オリエンテーション（同一名称の選択式・別日程）において，取りあげなかった内容を取りあげている（【3/10館】）。

「情報探索方法（各論）」については，いずれの館も，自館において利用できるデータベース／電子ジャーナル（契約しているもの／自由利用のもの）のうち一あるいは複数の利用方法を取りあげている（【9/9館】，但し電子ジャーナルの利用方法のみの館は4館）。

データベースの利用方法について、いずれの館もデータベースごとの基本的な利用方法（すなわち操作方法、検索方法）を取りあげている（【5/5館】）。データベースの種類としては、教育学系のERIC、心理学系のPsycINFOをほとんどの館が取りあげている（【4/5館】、1館はERICのみ）。

電子ジャーナルの利用方法について、いずれの館もパッケージごとの基本的な利用方法（すなわち操作方法、検索方法）を取りあげている（【9/9館】）。これに加えて、電子ジャーナル一般の概要をも取りあげる館が複数みられる（【3/9館】）。電子ジャーナルのパッケージ（提供者）としては、EBSCOhost、及び、ScienceDirectを多くの館が取りあげている（【5/9館】、3館はScienceDirectのみ、1館はEBSCOhostのみ）。

「情報表現方法」については、コンピュータソフトの初歩的な操作方法を取りあげている（【1/1館】）。コンピュータソフトの種類は申込者の希望によるが、PowerPoint、Excelの操作方法、HTMLによるホームページの作成方法などを取りあげている。

<担当者>

「図書館利用方法」、「情報探索方法（総論）」、及び、「情報探索方法（各論）」については、主な担当者は、いずれの館も、図書館職員、かつサービス相当係の職員（定員）であり、実習等の補助者には、同係定員外職員を充てている（順に【10/10館】【11/11館】【10/10館】、但し同係定員外職員をも担当者とする館も1館ある）。但し、「情報探索方法（各論）」のうち、電子ジャーナルの利用方法については、パッケージの講習担当者を主な担当者とする場合がある（【2/10館】、但し開催する全ての回においてではない）。

<時期>

「図書館利用方法」は、多くの館が4月（【8/11館】）、複数の館が4～5月（【3/11館】）に開催している。

「情報探索方法（総論）」は、多くの館が前期、後期の両方において開催している（【7/10館】）。前期においては、5月（【2/10館】）、5～6月（【2/10館】）と、複数の館が5～6月の間に開催している。対して後期においては、11月（【3/10館】）、10～11月（【2/10館】）、11～12月（【2/10館】）、10月（【1/10館】）、10～12月（【1/10館】）と、ほとんどの館が10～12月の間に開催している。

「情報探索方法（各論）」は、前期、後期の両方において開催している館（【5/9館】）と、いずれかにおいて開催している館（【4/9館】）がみられる。前期においては、5月（【2/9館】）の他は複数の館の同一開催月を見出すことができない。対して後期においては、11月（【2/9館】）、11～12月（【2/9館】）と、複数の館が11～12月の間に開催している。

「情報表現方法」は、年間を通して受付、開催している（【1/1館】）。

<場所>

「図書館利用方法」については、全ての館が、附属図書館（全体）を実施場所としている（【10/10館】）。

「情報探索方法（総論）」については、全ての館が、附属図書館（端末設置場所）を実施場所としている（【11/11館】）。「情報探索方法（各論）」については、全ての館が、附属図書館（端末設置場所）を実施場所としており（【10/10館】）、加えて、情報処理センター、及び、講義棟をも実施場所としている館が1館みられる（【2/11館】）。

「情報表現方法」については、附属図書館を実施場所としている（【1/1館】、但し附属図書館以外の場所も可）。

<方法>

「図書館利用方法」については、全ての館が、説明に加え館内を直接まわるツアー形式をとっている（【10/10館】）。

「情報探索方法（総論）」及び、「情報探索方法（各論）」については、全ての館が、説明を行った上で検索等の実習を行う形式をとっている（順に【11/11館】【10/10館】）。

「情報表現方法」については、操作の実習を中心に行う形式をとっている（【1/1館】）。

配付資料について、「図書館利用方法」については、複数の館が、既存の自館利用案内を使用している（【6/10館】、但し事前に配付したものを持参させるとする1館を含む）。

「情報探索方法」については、全ての館が、図書館職員が自作した資料を配付している（【11/11館】、但し併せて既製の資料を配付する館もある）。「情報探索方法（総論）」においては全ての館（【11/11館】）が、「情報探索方法（各論）」においては多くの館（【7/10館】）が自作した資料を配付している。また、複数の館において、演習問題を自作して配付している（【3/11館】）。

「情報探索方法（総論）」においては、全ての館が、情報探索の基礎に関する資料、及び、図書／論文検索ツールの利用マニュアルを自作して配付しており（【11/11館】）、また複数の館において、情報探索にかかわる演習問題を自作して配付している（【3/11館】）。「情報探索方法（各論）」においては、多くの館が、特定のデータベースや電子ジャーナルの利用マニュアルを自作して配付している（【7/10館】、但し電子ジャーナルの利用方法の配付資料については電子ジャーナル一般の概要を含む）。

「情報表現方法」においては、図書館職員が自作した資料を配付している（【1/1館】）。

②教員の依頼による開催

いずれの館も、教員の依頼に応じて開催する形をとっている（【11/11館】）。これに加えて、全学的な要請により開催する形をもとっている館が複数みられる（【2/11館】）。

<内容>

教員の依頼に応じて開催するものについては、いずれの館においても、①の内容のうちの「図書館利用方法」、及び／あるいは、「文献探索方法」を取りあげている（【11/11館】）。そして多くの館が、①の内容を基本として提示しつつ、教員の希望を基に組合せたり、追加・削除をしたりして取りあげるものを決定している（【8/11館】）。

全学的な要請により開催するものについては、いずれの館においても、①の内容のうちの「図書館利用方法」（OPACの利用方法を含む）を取りあげている（【2/2館】）。そしていずれの館においても、①の内容を基本として、図書館が主となり組合せたり、追加・削除をしたりして取りあげるものを決定している（【2/2館】）。

<担当者>

主な担当者は、いずれの館も、図書館職員、かつサービス相当係の職員（定員）であり、実習等の補助者には、同係定員外職員を充てている（【11/11館】）。そのうち、全学的な要請により開催するものは、いずれの館も、科目、特に大学1年次に開講される大学入門的科目（かつ必修科目）において、1コマの全部を図書館職員が担当している（【2/2館】）。また、教員の依頼に応じて開催するものは、いずれの館も科目やゼミにおいて、1コマの全部あるいは大部分を図書館職員が担当しているが（【11/11館】）、そのうち依頼者である科目担当教員が部分担当をする場合がある館も複数みられる（【2/11館】）。

<時期>

教員の依頼に応じて開催するものについては、いずれの館も、年間を通して受付、開催をしている

【11/11館】。

全学的な要請により開催するものについては、いずれの館も、前年度に受付をして、4～5月、あるいは、4～6月といった当該年度の早い時期に開催をしている【2/2館】。

<場所>

教員の依頼に応じて開催するものについては、多くの館が、教員の希望を基に実施場所を調整して決定しており、かつ附属図書館以外の場所での開催も可能である【8/11館】。

全学的な要請により開催するものについては、いずれの館も、附属図書館を実施場所としている【2/2館】。

<方法>

形式について、教員の依頼に応じて開催するもの、全学的な要請により開催するものとも、内容に応じた形式をとっている。「図書館利用方法」を取りあげる場合は、ほとんどの館が、説明に加え館内を直接まわるツアー形式をとり【10/11館】、「情報探索方法」を取りあげる場合は、すべての館が、説明に加え検索等の実習を行う形式をとっている【11/11館】。

配付資料について、教員の依頼に応じて開催するもの、全学的な要請により開催するものとも、内容に応じて①の配付資料を組合せたり、①の配付資料を基に新規に作成したりしているため、配付資料の内容は①に準ずる。教員の依頼に応じて開催するものについて、多くの館が、内容に応じて①の配付資料を基に新規に作成、配付しており【7/11館】、また複数の館が、内容に応じて①の配付資料を組合せて配付している【3/11館】。加えて、複数の館は、内容に応じた演習問題の作成、配付をも行っている【3/11館】。全学的な要請により開催するものについて、いずれの館も、内容に応じた配付資料を新規に作成し、また①の配付資料を組合せて配付している【2/2館】。

2) ガイダンス/オリエンテーション以外の利用教育または利用支援

ここでは、ガイダンス/オリエンテーションにおいて提供される資料等のうち、受講者にのみ配付されるものについては扱わないこととする。

働きかけの種類により、メディアを介して間接的に行う利用教育または利用支援、直接的に行う利用教育または利用支援に分けることができる。

<内容>

メディアを介して間接的に行う利用教育または利用支援について、内容は、いずれの館においても、1)における「図書館利用方法」、及び、「情報探索方法」に相当するものを取りあげている【11/11館】。

直接的に行う利用教育または利用支援について、いずれの館も、内容は個々の学生に合わせたものを取りあげている【11/11館】。

<担当者>

メディアを介して間接的に行う利用教育または利用支援について、メディアの作成から提供までの主な担当者は、いずれの館も、図書館職員、かつサービス相当係の職員（定員）である【11/11館】、但しホームページ運営や館報編集自体は総務相当係などの所掌である場合がある。

直接的に行う利用教育または利用支援について、主な担当者は、いずれの館も、図書館職員、かつサービス相当係の職員（定員）である【11/11館】。

<時期>

メディアを介して間接的に行う利用教育または利用支援について、ほとんどの館は、基本的には年度当初から、あるいは年度途中でも必要が生じた時から、年間を通して行っており、また逐次行うこ

とができるものは時期を見計らい適する時期に行っている（【11/11館】）。

直接的に行う利用教育または利用支援について、全ての館において、個別指導は通年受付をし、随時対応している（【11/11館】）。

<場所（場面）>及び<方法>

メディアを介して間接的に行う利用教育または利用支援について、いずれの館も、印刷メディア（リーフレット、パンフレット、冊子体）、及び/または、電子メディア（Web ページ、PDF）による情報提供という形をとる働きかけを行っている（【11/11館】）。自館利用案内の提供、Web 情報源へのリンク集の提供という働きかけの形を、いずれの館もとっている（【11/11館】）。また、図書館利用FAQ の提供、ガイダンス/オリエンテーションにおける配付資料の提供（実施後）、データベース等利用マニュアルの提供という働きかけの形を、それぞれ複数の館がとっている（順に【5/11館】【3/11館】【3/11館】）。

直接的に行う利用教育または利用支援について、いずれの館も、カウンターにおける個別指導を行っている（【11/11館】、但しメールによるレファレンスをも行っている1館を含む）。

3.2 各館の図書館利用教育（ケース）

(1) 京都教育大学附属図書館

- ・利用教育担当組織：附属図書館一事務部一情報サービス係（3名）
- ・学生数：大学院教育学研究科（修士課程）…161（入学定員 70），教育学部…1552（入学定員 300），特殊教育特別専攻科…20（入学定員 45）

1) ガイダンス/オリエンテーション

①図書館主催

名称	開催時期	開催回数	所要時間	定員	参加受付 (申込) 方式	対象	配付資料	内容	備考
新生オリエンテーション	4月	1日1回 (全学オリエンテーション中に組み込まれている)	1回20分	なし	受付不要	新入生	『図書館利用案内2004』（京都教育大学附属図書館）	図書館の説明	※ 実施状況：1回370名
図書館ツアー	4月	1日1回	1回25分	なし	受付不要	留学生	なし	館内案内	※1 実施状況：1回10数名 ※2 留学生係からの依頼により実施 ※3 図書館ツアー（新入生対象）の1) と同内容
図書館ツアー	4～5月	20回（内容3種類）	1回25分	なし	当日受付	新入生（在学生も可）	『館内マップ』（1)のみ）、『京都教育大学OPAC入門』（OPAC説明用パワーポイントスライド配布資料、2)のみ）、『論文検索・収集法講座』（3)のみ）	1) 館内案内、2) 所蔵資料の探し方（OPAC入門）（本学所蔵資料の検索：①視聴覚室で説明（プロジェクターを使用）、②1階OPACコーナーで実習、③検索結果で得た資料を書架で現物確認をする）、3) 文献検索・収集法入門（①NACSIS-IRの「雑誌記事索引」による文献調査、②OPAC所蔵データの見方・探し方、③WebCATの利用法、④論文入手のための手続き）	※1 実施状況：11回26名 ※2 2) は基礎セミナー・図書館利用ガイダンスの一部と同内容 ※3 3) は論文検索・収集法講座と同内容（1)及び2)とは位置付けが異なる）

名称	開催時期	開催回数	所要時間	定員	参加受付 (申込) 方式	対象	配付資料	内容	備考
論文検索・収集法講座	10～11月	10回	1回25分	なし	当日受付	全学生, 教職員	『論文検索・収集 法講座』	①NACSIS-IRの「雑誌 記事索引」による文献 調査, ②OPAC所蔵 データの見方・探し 方, ③WebCATの利用 法, ④論文入手のため の手続き	※実施状況: 6回10 名(院生1名, 学部 生9名)
電子ジャーナル講習会	11～12月	7回	1回30分	1回6名	当日受付	全学生, 教職員	『電子ジャーナル 講習会』	(電子ジャーナルの利 用方法, 利用上の注意 点について説明): ① 電子ジャーナルとは, ②京都教育大学から利 用できる電子ジャー ナル, ③電子ジャー ナル利用のルール, ④電子 ジャーナルを見るに は, ⑤便利な機能 —Science Directの場 合, ⑥NACSIS-ELSに ついて, ⑦CiNiiにつ いて	※実施状況: 3回4 名(院生4名)
データベース講習会	11～12月	7回	1回30分	1回6名	当日受付	全学生, 教職員	『データベース講 習会』	(PsycINFO, ERICの 利用方法について説 明, EBSCOhostの紹 介): ①PsycINFO, ②ERIC	※実施状況: 1回2 名(教員1名, 院生 1名)

②教員の依頼による開催

名称	対象	開催時期	受付時期	開催場所	開催単位	所要時間	内容	配付資料	教員への 周知	備考
基礎セミナー・図書 館利用ガイダンス	新入生	4～6月 (日程は 調整)	前年度1～ 2月(図書 館側から 照会)	附属図書 館	授業科目 (「基礎 セミ ナー」) の半数	1回45分 (授業1時 間を半分 ずつにす る)	図書館が計画した内容 (①館内案内, ②OPAC入門(本学所 蔵資料の検索: 視聴覚 室で説明(プロジェク ターを使用), 1階 OPACコーナーで実 習, 検索結果で得た資 料を書架で現物確認を する) + 文献複写時 における著作権につ いての説明(利用案内記 載程度))	『京都教育大学 OPAC入門』 (OPAC説明用パ ワーポイントスラ イド配布資料), 『館内マップ』, 『図書館ガイダ ンス(基礎セミ ナー) OPAC検索 実習』(実習・ア ンケート用紙)	行っている(教職 員宛照会 文書にて 広報)	※実施状況: 21回 363名(参加率 90%)
オーダーメイド講習 会	不問	通年(日 程は調 整)	通年	教員の希 望を基に 調整(附 属図書館 以外の場 所も可)	研究室ゼ ミ, 授業 科目等	教員の希 望を基に 調整	選択肢を提示しつつ, 教員の希望を基に打合 せをして決定 <内容 の選択肢> ①電子 ジャーナル利用案内, ②データベース利用案 内, ③その他(希望内 容)	図書館主催のガイ ダンスでの配付資 料を基に, 内容に 応じたものを作 成・配付	行っている(ホ ームページ 「オー ダーメ イド講 習会 のご案内」, 及び, 教職 員宛文書 「オー ダーメ イド講 習会 のお知らせ」 にて 広報)	※1 実施状況: 1回 27名 ※2 予め示されて いる内容の選択肢 は, ①及び② ※3 『基礎セミ ナー・図書館利用 ガイダンス』以外 での教員のニーズ に定めるため, 本 講習会を実施して いる
(事例) ・「社会調査論」(学部2～4年生): NACSIS-IRの「雑誌記事索引」による文献調査, OPAC所蔵データの見方・探し方, WebCAT(ママ)の利用 法, 論文入手のための手続き ※『論文検索・収集法講座』と同一内容										

2) ガイダンス／オリエンテーション以外の利用教育または利用支援

①図書館利用関連

- ・自館利用案内の提供

『図書館利用案内 2004』(パンフレット) ※他館利用方法の説明も含む

『京都教育大学附属図書館利用案内』(Web ページ) ※他館利用方法の説明も含む

- ・自館利用方法の資料の提供

『2006年度卒業・修了生の方へ』(Web ページ) ※卒業・終了後の図書館利用方法についての情報(『お知らせ』欄からのリンク)

②情報探索関連

- ・情報探索方法の資料の提供

『図書館利用案内 2004』(パンフレット) ※資料の探し方についての解説がある

- ・Web 情報源へのリンク集の提供

『電子ジャーナル』(Web ページ) ※学内で利用できる電子ジャーナルへのリンクと解説がある

『情報検索に役立つリンク集』(Web ページ) など

③その他

- ・カウンターにおける個別の利用教育または利用支援態勢

3) 特記事項

- ・『基礎セミナー・図書館利用ガイダンス』の効果

『基礎セミナー・図書館利用ガイダンス』の実施に伴って、新入生の入館者数、及び、図書貸出冊数が増加してきている。これは、ほとんどの新入生に図書館利用の基礎を身につけさせることができているためであるとみられる。

- ・Q&A ページの提供

2005年度中に、図書館利用方法、及び、情報探索方法にかかわる Q&A (Web ページ) をホームページに提供することを計画している。

(2) 奈良教育大学附属図書館(現:奈良教育大学学術情報研究センター図書館)

- ・利用教育担当組織: 附属図書館一情報サービス係(2名)
- ・学生数: 大学院教育学研究科(修士課程)…149(入学定員 60), 教育学部…1204(入学定員 255), 特殊教育特別専攻科…7(入学定員 15)

1) ガイダンス/オリエンテーション

①図書館主催

名称	開催時期	開催回数	所要時間	定員	参加受付(申込)方式	対象	配付資料	内容	備考
文献検索講習会: 雑誌論文の探し方	11月	3日6回	1回30分	1回5名まで	要予約(メール, 電話, またはカウンターにて受付)	学部生, 研究生, 科目等履修生等	『文献検索講習会: 雑誌論文の探し方』	①雑誌論文の探し方, ②『雑誌記事索引』データベースの利用方法説明及び実習, ③その他の有用なデータベース, 索引誌の紹介	※1 実施状況: 7回16名(12月に追加1回実施(1名参加)) ※2 内容の中でも, ②の『雑誌記事索引』データベースの操作実習に重点をおいている
電子ジャーナル利用説明会	1~2月	2日2回	1回30分	なし	当日受付	大学院生, 研究生, 留学生(学部生も可)	『電子ジャーナル利用説明会』(電子ジャーナル利用説明会パワーポイントスライド配布資料)	①電子ジャーナルの概要(外国雑誌・国内雑誌の電子化事情), ②電子ジャーナルへのアクセス方法, ③電子ジャーナルの閲覧方法	※実施状況: 2回4名

②教員の依頼による開催

名称	対象	開催時期	受付時期	開催場所	開催単位	所要時間	内容	配付資料	教員への周知	備考
図書館ガイダンス	新入生 (全員)	4～5月 (日程は調整)	前年度	附属図書館	専修(困難な場合はコースあるいは課程)	60分	図書館が計画した内容 (①図書館の利用方法, ②図書館内施設の案内, ③図書館資料の配置について, ④図書・雑誌以外の資料の利用方法, ⑤図書館相互協力システムについて, ⑥蔵書目録検索システムの利用方法)	『図書館利用案内2004』(入学式時配布資料), 『図書館ガイダンス2004』, 『図書館OPAC(オンライン蔵書目録)検索』(OPAC検索説明用レジュメ)	行っている(教職員宛照会文書にて広報)	※実施状況: 10回 290名
(なし)	不問	通年(日程は調整)	通年	教員の希望を基に調整(附属図書館以外の場所も可)	研究室ゼミ, 授業科目等	教員の希望を基に調整	教員の希望を基に打合せをして決定	図書館主催のガイダンスでの配付資料を基に, 内容に応じて作成・配付	行っていない	※実施状況: 0回 0名

2) ガイダンス／オリエンテーション以外の利用教育または利用支援

① 図書館利用関連

- ・自館利用案内の提供

『図書館利用案内: LIBRARY GUIDE: 2004』(リーフレット) ※他館利用方法の説明も含む

『図書館利用案内』(Web ページ) ※他館利用方法の説明も含む

② 情報探索関連

- ・情報探索方法の資料の提供

『論文・レポートの資料・参考文献を探す』(Web ページ)

- ・Web 情報源へのリンク集の提供

『図書を探す』(Web ページ) ※書誌／所在情報検索サイトへのリンク, 及び, 書誌／所在情報検索ツールの請求記号と解説がある

『情報検索』(Web ページ) ※学外でも利用できるデータベースへのリンクと解説がある

『サブジェクトゲートウェイ&リンク集』(Web ページ) など

③ その他

- ・カウンターにおける個別の利用教育または利用支援態勢

3) 特記事項

- ・情報リテラシー教育にかかわる動き

これまでにも, 学生用に情報処理センターのコンピュータの館内設置などを行ってきたが, 学生への教育という観点から, 情報処理センターとの連携がさらに進められつつある。

※補記: 2005年4月に情報処理センターと統合し, 奈良教育大学学術情報研究センター図書館となった。

- ・ガイダンス／オリエンテーションへの学生の参加について

学内の傾向として, 文献研究よりも実践研究に重点がおかれてきているため, 情報探索方法のガイダンス／オリエンテーション(『文献検索講習会』及び『電子ジャーナル利用説明会』)への学生の参加数も多くはないとみられる。

(3) 兵庫教育大学附属図書館

- ・利用教育担当組織: 学務部—学術情報課—学術情報チーム—情報サービス係 (3名)
- ・学生数: 大学院学校教育研究科(修士課程)…666(入学定員 300), 学校教育学部…713(入学定員 160) ※博士課程を除く

1) ガイダンス／オリエンテーション

①図書館主催

名称	開催時期	開催回数	所要時間	定員	参加受付 (申込) 方式	対象	配付資料	内容	備考
新入生全学オリエンテーション	4月	1日1回	1回40分	なし	受付不要	新入生	『兵庫教育大学附属図書館利用案内2004』	図書館利用とサービス全般の簡潔な紹介(図書館HP利用, PowerPoint)	※1 実施状況: 1回約400名 ※2 全学的な新入生対象オリエンテーションの一部として実施, 新入生のほとんどが受講する
新入生全学オリエンテーション	4月	1日1回	1回30分	なし	受付不要	新入生 (神戸サテライト学生)	『兵庫教育大学附属図書館利用案内2004』	www画面からのOPACと図書館サービスの紹介	※1 実施状況: 1回67名 ※2 全学的な新入生対象オリエンテーションの一部として実施, 神戸サテライトの新入生のほとんどが受講する
図書館ツアー	4月	5日5回	1回30分	なし	当日受付	全学生	『館内案内図』	図書館内の案内(館内一周; 図書館資料の配置や並び方, 利用可能な施設の案内などについて実際に館内を巡りながら説明)	※実施状況: 5回91名
本館蔵書検索(OPAC)入門(『所蔵検索(OPAC)編』)	5月	5日5回	1回30分	なし	当日受付	全学生	『所蔵検索(OPAC)編』	OPACの使い方(コンピュータを使った効率的な学内の資料の探し方を, 初心者向けに解説)	※実施状況: 5回61名
論文・レポートを書くための文献探索入門(『文献探索入門編』)	5~6月	6日6回 (各回別内容)	1回30分	なし	当日受付 (全回参加/特定回のみ参加とも可)	全学生	『文献探索講座』, 『図書を手しよう。』, 『Webcat(総合目録データベース)の使い方』, 『国立国会図書館を活用しよう!』, 『雑誌論文の探し方(NACSIS-IRの使い方)』, 『ERICの使い方』, 『PsycINFOの使い方』, 『電子ジャーナルの使い方』	1) 文献探索法概論, 2) 学内がない図書の探し方と入手方法(国会図書館, 県立図書館, Webcatなど), 3) 雑誌論文の探し方(NACSIS-IR), 4) ERIC, PsycINFOの使い方, 5) JOISと電子ジャーナルの使い方, 6) 新聞記事の探し方と教育学論説資料(CD-ROM)の紹介	※実施状況: 6回128名
図書館利用説明会	9月	1日1回	1回90分	なし	当日受付	全学生 (神戸サテライト学生)	『図書館利用案内サテライト版』	『図書館利用案内サテライト版』の説明, OPACと図書借用法の説明, Webcat・雑誌記事索引・NACSIS-ELS・電子ジャーナルの利用方法の説明	※実施状況: 1回14名
論文・レポートを書くための文献探索入門(『文献探索入門編』)	11月	5日5回 (各回別内容)	1回30分	なし	当日受付 (全回参加/特定回のみ参加とも可)	全学生	『文献探索講座』, 『図書を手しよう。』, 『Webcat(総合目録データベース)の使い方』, 『国立国会図書館を活用しよう!』, 『雑誌論文の探し方(NACSIS-IRの使い方)』, 『ERICの使い方』, 『PsycINFOの使い方』, 『電子ジャーナルの使い方』	1) 文献探索法概論, 2) 学内がない図書の探し方と入手方法(国会図書館, 県立図書館, Webcatなど), 3) 雑誌論文の探し方(NACSIS-IR), 4) ERIC, PsycINFOの使い方, 5) 電子ジャーナル, Jdreamの使い方	※実施状況: 5回28名

②教員の依頼による開催

名称	対象	開催時期	受付時期	開催場所	開催単位	所要時間	内容	配付資料	教員への周知	備考
(なし)	不問	通年(日程は調整)	通年	教員の希望を基に調整(附属図書館以外の場所も可)	研究室ゼミ、授業科目等	教員の希望を基に調整	教員の希望を基に打合せをして決定	図書館主催のガイダンスでの配付資料を、内容に応じて組合せて配付	行っていない	※1 実施状況：2回34名 ※2 情報探索方法や、具体的なデータベース、電子ジャーナルなどの情報源の利用方法の説明が求められることが多い
(事例) ・「教育情報活用特論Ⅰ」(大学院1年生)：NACSIS-IR, NACSIS-ELS, ERIC, 電子ジャーナルについての説明										

2) ガイダンス／オリエンテーション以外の利用教育または利用支援

① 図書館利用関連

- ・ 自館利用案内の提供

『Library Guide 2004：兵庫教育大学附属図書館利用案内』(パンフレット) ※他館利用方法の説明も含む

『利用案内&よくある質問』(Web ページ) ※他館利用方法の説明も含む

- ・ 図書館利用 FAQ の提供

『FAQ 特捜隊』(Web ページ)

- ・ 自館利用方法の資料の提供

『図書館だより No.134』「図書館を利用させていただくために：利用のコツ」(パンフレット／PDF)

② 情報探索関連

- ・ 情報探索方法の資料の提供

『文献のさがしかた』(Web ページ)

『文献の入手方法』(Web ページ)

『図書館だより No.132』「本学を修了・卒業予定の方へ：修了・卒業後の図書館利用と文献入手 Q&A」(パンフレット／PDF) など

- ・ データベース等利用マニュアルの提供

『ERIC の使い方』(PDF)

『雑誌論文の探し方：「NACSIS-IR 雑誌記事索引ファイル」の使い方：第2版』(PDF) など

- ・ Web 情報源へのリンク集の提供

『データベース利用の手引き』(Web ページ) ※学内で利用できるデータベースへのリンクと解説がある

『リンク集』(Web ページ) など

③ その他

- ・ カウンターにおける、及び、電子メールによる個別の利用教育または利用支援態勢

3) 特記事項

- ・ ガイダンス／オリエンテーション実施後の個別の利用教育

教員の依頼により開催した授業の1コマとしてのガイダンス／オリエンテーションにおける情報探索の説明のうち、十分に理解ができなかった箇所について、後日カウンターに問合せがあれば改めて初めからでも説明を行う、というような個別の復習あるいは補習に応じている。

・修了生・卒業生への利用教育

修了生・卒業生に対する利用教育の一として、修了・卒業時（学期末）に発行する館報に、大学を離れた後の図書館利用についての特集記事（兵庫教育大学附属図書館／その他の図書館の利用について、文献の入手方法、NDL-OPACの操作マニュアル）を掲載している。

(4) 鳴門教育大学附属図書館

- ・利用教育担当組織：総務部—情報図書課—サービス係（3名）
- ・学生数：大学院学校教育研究科（修士課程）…524（入学定員 300）、学校教育学部…474（入学定員 100） ※博士課程を除く

1) ガイダンス／オリエンテーション

① 図書館主催

名称	開催時期	開催回数	所要時間	定員	参加受付（申込）方式	対象	配付資料	内容	備考
オリエンテーション	4月	1日1回	1回20分	なし	受付不要	学部新入生	『図書館利用案内2004』	図書館利用案内	※1 実施状況：1回120名 ※2 入学式後学部新入生は全員参加 ※3 図書館長，サービス係長が担当
オリエンテーション	4月	1日1回	1回20分	なし	受付不要	院新入生（夜間履修生を除く）	『図書館利用案内2004』	図書館利用案内	※1 実施状況：1回260名 ※2 入学式後院新入生（夜間履修生を除く）は全員参加 ※3 図書館長，サービス係長が担当
オリエンテーション	4月	1日1回	1回30分	なし	受付不要	院新入生（夜間履修生）	『図書館利用案内2004』	図書館利用案内	※1 実施状況：1回4名 ※2 サービス係が担当
図書館オリエンテーション	4月	8日8回	1回40分	30名	要予約（カウンターにて受付）	新入生	『図書館利用案内2004』，『OPAC（学内蔵書検索）マニュアル：簡略版』	①図書館利用案内，②OPACの説明	※1 実施状況：8回104名 ※2 院生が大部分を占める
情報検索ガイダンス	7～9月	51日51回程度	1回60分程度	1日1名程度	要予約（カウンターにて受付）	全学生	研究テーマの内容に関わるデータベースのマニュアル	1対1の個別指導	※実施状況：51回中20回，院生がほとんど
電子ジャーナル説明会	9月	1日1回	1回90分	なし	当日受付	全学生，教職員	EBSCO社提供の資料	EBSCOhostの利用説明	※実施状況：1回5名
図書館利用ガイダンス	1月	1日1回	1回90分	15名	要予約（カウンターにて受付）	全学生	NACSIS-IRの使い方，文献検索から入手までの流れの資料	論文作成における図書館の有効な利用法（実習を含む）	※実施状況：1回8名

② 教員の依頼による開催

名称	対象	開催時期	受付時期	開催場所	開催単位	所要時間	内容	配付資料	教員への周知	備考
留学生ガイダンス	留学生	4月	前年度	附属図書館	留学生グループ	1回60分	図書館利用案内	『図書館利用案内2004』	行っている	※1 実施状況：1回12名 ※2 留学生担当教員の付き添いあり
(なし)	不問	通年（日程は調整）	通年	教員の希望を基に調整（附属図書館以外の場所も可）	研究室ゼミ，授業科目等	教員の希望を基に調整	教員の希望を基に打合せをして決定	図書館主催のガイダンスでの配付資料を基に，内容に応じて作成し，また演習問題も併せて作成・配付	あまり行っていない	※1 実施状況：7回169名 ※2 情報処理センターでの実施が多い
(事例) ・「臨床心理学文献演習」（大学院1年生）：情報機器を使用した図書館サービス（文献検索，演習を含む） ※4回連続講義 ・「教育情報処理Ⅰ」（学部1年生）：情報機器を使用した文献検索，演習 大学院1年生）：データベースを利用した文献検索ガイダンス										※4回連続講義 ・「日本語教育」（大

2) ガイダンス／オリエンテーション以外の利用教育または利用支援

① 図書館利用関連

- ・ 自館利用案内の提供

『図書館利用案内 2004』（リーフレット（『同 2003』は PDF もあり） ※他館利用方法の説明も含む

『利用案内』（Web ページ） ※他館利用方法の説明も含む

- ・ 図書館利用 FAQ の提供

『よ～けある質問（FAQ）』（Web ページ）

- ・ 図書館用語集の提供

『鳴門教育大学附属図書館用語集』（Web ページ）

② 情報探索関連

- ・ ガイダンスにおける配付資料（講義資料）の提供（実施後）

『臨床心理学文献演習講義資料：I 文献の探し方』（PDF） など

- ・ データベース等利用マニュアルの提供

『ScienceDirect から入るデータベース：MEDLINE：医学文献の検索』（PDF）

『鳴門教育大学蔵書検索（OPAC）の利用の手引き：簡略版』（PDF） など

- ・ Web 情報源へのリンク集の提供

『本をさがす：図書館・書店・出版社へのリンク集』（Web ページ） ※図書入手の考え方や流れについての解説がある

『文献検索』（Web ページ） ※学内で利用できるデータベースへのリンクと解説がある

『教育関係のサイト』（Web ページ） など

- ・ 情報探索方法の資料の提供

『よ～けある質問（FAQ）』（Web ページ） ※資料検索についての FAQ を含む

③ その他

- ・ カウンターにおける個別の利用教育または利用支援態勢

3) 特記事項

- ・ 内容に応じたガイダンス／オリエンテーションの開催回数

教員の依頼により開催されるガイダンス／オリエンテーションにおいて、図書館職員は、情報探索方法について説明あるいは実習する講義を 1 回のみ開催するのではなく、当該科目担当教員の授業計画を基に、当該科目に求められる情報探索についての知識、及び、技能を身につけるために必要な内容の分だけ担当することになるため、複数回の開催となることがある。

- ・ 学生以外を対象とした利用教育

社会貢献の一環として、学外利用者である市民へのガイダンス（図書館利用方法／情報探索方法）を催し、また鳴門市立学校の図書館担当者との連絡会（鳴門教育大学附属図書館の概要説明、意見交換）を開いている。その他、新任教職員を対象としたオリエンテーション（施設見学）も行っている。

(5) 大阪教育大学附属図書館

- ・ 利用教育担当組織：学務部一学術情報課一サービス係（2 名）＋事務補佐員（3 名）

- ・ 学生数：大学院教育学研究科（修士課程）…502（入学定員 221），教育学部第一部（教員養成課程，教養学科）…4049（入学定員 890），特殊教育特別専攻科…15（入学定員 30） ※教育

学部第二部（小学校教員養成課程）を除く

1) ガイダンス／オリエンテーション

大阪教育大学附属図書館におけるガイダンス／オリエンテーションは、図書館がガイダンス／オリエンテーションにおいて扱う基本メニューを公に示した上で、開催希望を募り、希望があれば開催する形をとる、いわばオーダーメイドを基本としている（基本メニューにない内容や組合せについても相談に応じる）。これは教員、学生、及び、職員に対して開かれており、いずれも開催希望を出すことができるようになっている（学生の場合は2名以上のグループ単位）。従って、①図書館主催、及び、②教員の依頼による開催の2つに分けることはできないため、便宜上ここでは、教員の依頼をうけて開催する場合は②、その他教員以外のたとえば学生有志（グループ）などによる希望により開催する場合は①として分けて記すこととする。但し、①、及び、②の両方に記したガイダンス／オリエンテーションがいくつかある旨を述べておく。

①図書館主催

名称	開催時期	開催回数	所要時間	定員	参加受付 (申込) 方式	対象	配付資料	内容	備考
新入生向け図書館ツアー	4月	5日5回	1回20分	なし	当日受付	新入生 (在校生も可)	『図書館利用案内：学生用』、館内地図等	①図書館利用案内（館内のどこにどういう資料が置いてあるのか、何ができるのか、実際に案内）、②貴重書・レアコレクション閲覧（+終了後時間に余裕がある参加者のために③OPAC検索基礎、④Webcat検索基礎）	※実施状況：4回17名
留学生向けツアー	4月	1日1回	1回60分	なし	受付不要	留学生	『図書館利用案内：学生用』、『図書館利用案内』（中国語版）、『図書館利用案内』（英語版）等	①図書館ツアー、②OPAC、Webcat検索法（検索方法を習得するための実習）	※1 実施状況：1回40名 ※2 留学生係からの依頼により実施
ゼミ単位でのクラス	4-6月	—	1回20分	なし	要予約 (メール、電話、カウンターにて受付)	ゼミ生	『図書館利用案内：学生用』、図書館職員作成資料（OPAC検索の仕方など）	①図書館利用案内（館内のどこにどういう資料が置いてあるのか、何ができるのか、実際に案内）、②貴重書・レアコレクション閲覧（+終了後時間に余裕がある参加者のために③OPAC検索基礎、④Webcat検索基礎）	
留学生向けツアー	通年	—	1回60分	なし	要予約 (メール、電話、カウンターにて受付)	留学生	『図書館利用案内：学生用』、『図書館利用案内』（中国語版）、『図書館利用案内』（英語版）等	①図書館ツアー、②OPAC、Webcat検索法（検索方法を習得するための実習）、③Magazine-Plus検索法（問題を解いていながら、使い方を習得する実習）、④電子ジャーナル利用法（電子ジャーナルの概要、利用法の説明）、⑤各分野に合わせたデータベース検索法（問題を解いていながら、各分野のデータベースの使い方を習得する実習）	※内容は選択して組み合わせる

名称	開催時期	開催回数	所要時間	定員	参加受付 (申込) 方式	対象	配付資料	内容	備考
ゼミ単位でのクラス	通年	—	1回60分	なし	要予約 (メール, 電話, カウンターにて受付)	全学生	『図書館利用案内: 学生用』, 図書館職員作成資料	①図書館ツアー, ②OPAC, Webcat検索法 (検索方法を習得するための実習), ③Magazine-Plus検索法 (問題を解いていながら, 使い方を習得する実習), ④電子ジャーナル利用法 (電子ジャーナルの概要, 利用法の説明), ⑤各分野に合わせたデータベース検索法 (問題を解いていながら, 各分野のデータベースの使い方を習得する実習)	※内容は基本的なものであるため, 追加することもある
各種ソフトの基礎的操作方法	通年	—	1回80分	なし	要予約 (メール, 電話, カウンターにて受付)	全学生	図書館職員作成資料	各種ソフトの操作方法 (レポート・論文作成に必要なパソコンソフトの初歩的な操作方法を学ぶ実習)	
論文を書くための情報活用術	通年	—	1回80分	なし	要予約 (メール, 電話, カウンターにて受付)	全学生	図書館職員作成資料	①OPAC, Webcat検索法 (検索方法を習得するための実習), ②Magazine-Plus検索法 (問題を解いていながら, 使い方を習得する実習), ③各分野に合わせたデータベース検索法 (問題を解いていながら, 各分野のデータベースの使い方を習得する実習), ④学外からの資料入手方法等	※内容は基本的なものであるため, 追加することもある

②教員の依頼による開催

名称	対象	開催時期	受付時期	開催場所	開催単位	所要時間	内容	配付資料	教員への周知	備考
ゼミ単位でのクラス	ゼミ生	4-6月 (日程は調整)	4-6月	教員の希望を基に調整 (附属図書館以外の場所も可)	研究室ゼミ	1回20分	①図書館利用案内 (館内のどこにどういふ資料が置いてあるのか, 何ができるのか, 実際に案内), ②貴重書・レアコレクション閲覧 (+終了後時間に余裕がある参加者のために③OPAC検索基礎, ④Webcat検索基礎)	『図書館利用案内: 学生用』, 図書館職員作成資料 (OPAC検索の仕方など)	行っている (ホームページ「図書館利用講習会」, 及び, 職員用電子掲示板にて広報)	※実施状況: 11回214名
留学生向けツアー	留学生	通年 (日程は調整)	通年	教員の希望を基に調整 (附属図書館以外の場所も可)	留学生グループ	1回60分	①図書館ツアー, ②OPAC, Webcat検索法 (検索方法を習得するための実習), ③Magazine-Plus検索法 (問題を解いていながら, 使い方を習得する実習), ④電子ジャーナル利用法 (電子ジャーナルの概要, 利用法の説明), ⑤各分野に合わせたデータベース検索法 (問題を解いていながら, 各分野のデータベースの使い方を習得する実習)	『図書館利用案内: 学生用』, 『図書館利用案内』 (中国語版), 『図書館利用案内』 (英語版) 等	行っている (ホームページ「図書館利用講習会」, 及び, 職員用電子掲示板にて広報)	※1 実施状況: 0回0人 ※2 内容は選択して組み合わせる

名称	対象	開催時期	受付時期	開催場所	開催単位	所要時間	内容	配付資料	教員への周知	備考
ゼミ単位でのクラス	不問	通年（日程は調整）	通年	教員の希望を基に調整（附属図書館以外の場所も可）	研究室ゼミ、授業科目等	1回60分	①図書館ツアー、②OPAC、Webcat検索法（検索方法を習得するための実習）、③Magazine-Plus検索法（問題を解いていきながら、使い方を習得する実習）、④電子ジャーナル利用法（電子ジャーナルの概要、利用法の説明）、⑤各分野に合わせたデータベース検索法（問題を解いていきながら、各分野のデータベースの使い方を習得する実習）	『図書館利用案内：学生用』、図書館職員作成資料	行っている（ホームページ「図書館利用講習会」、及び、職員用電子掲示板にて広報）	※1 実施状況：6回200名 ※2 内容は基本的なものであるため、追加することもある
各種ソフトの基礎的操作方法	不問	通年（日程は調整）	通年	教員の希望を基に調整（附属図書館以外の場所も可）	研究室ゼミ、授業科目等	1回30分	各種ソフトの操作方法（レポート・論文作成に必要なパソコンソフトの初歩的な操作方法を学ぶ実習）	図書館職員作成資料	行っている（ホームページ「図書館利用講習会」、及び、職員用電子掲示板にて広報）	※実施状況：3回47名
論文を書くための情報活用術	不問	通年（日程は調整）	通年	教員の希望を基に調整（附属図書館以外の場所も可）	研究室ゼミ、授業科目等	1回80分	①OPAC、Webcat検索法（検索方法を習得するための実習）、②Magazine-Plus検索法（問題を解いていきながら、使い方を習得する実習）、③各分野に合わせたデータベース検索法（問題を解いていきながら、各分野のデータベースの使い方を習得する実習）、④学外からの資料入手方法等	図書館職員作成資料	行っている（ホームページ「図書館利用講習会」、及び、職員用電子掲示板にて広報）	※1 実施状況：5回112名 ※2 内容は基本的なものであるため、追加することもある
<p>（事例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「情報機器の操作」（学部1～2年生）：図書館ツアー（歩くことによる館内案内）、OPAC検索法、NACSIS-Webcat検索法、Magazine-Plus検索法 ・「人文地理学ゼミ」（3～4年生、院1～2年生）：図書館ツアー（歩くことによる館内案内）、OPAC検索法、NACSIS-Webcat検索法、Magazine-Plus検索法、NACSIS-IR検索法、PsycINFO検索法、HTMLによるホームページ作成法、Excel及びPowerPointの操作法 										

2) ガイダンス／オリエンテーション以外の利用教育または利用支援

①図書館利用関連

- ・自館利用案内の提供

『図書館利用案内：学生用』（リーフレット） ※他館利用方法の説明も含む

『利用案内』（Web ページ） ※他館利用方法の説明も含む

②情報探索関連

- ・情報探索方法の資料の提供

『利用案内』（Web ページ） ※資料の探し方についての解説がある

『学内に資料がない時は？：柏原本館 Version』（Web ページ） ※検索のクイックリファレンス

『「教員養成セミナー」（8巻3号、9巻6号）を探しましょう！』（パワーポイントスライド）

『OKUL：大阪教育大学附属図書館だより Vol.35』「OPAC の使い方」（パンフレット／デジタルパンフレット） など

- ・Web 情報源へのリンク集の提供

『インターネットリソース』「教育機関・教育情報へのリンク集」（Web ページ） ※学内で

利用できるデータベースへのリンクと解説がある

『参考書案内』「総合的に調べる」(Web ページ) ※事実／書誌情報検索ツールの請求記号、及び、事実／書誌情報検索サイトへのリンクと解説がある など

③その他

- ・カウンターにおける個別の利用教育または利用支援態勢

3) 特記事項

- ・ガイダンス／オリエンテーションの計画

ガイダンス／オリエンテーションの計画について、共通のシナリオはあるが大まかなものであり、実際は実施を担当するサービス系の職員個人が計画することになっている。なお、職員(定員)だけでなく、同系の事務補佐員も実施の担当者となるため、自身で計画することになる。

- ・学生の依頼によるガイダンスの開催

学生同士(グループ)からの依頼に応じて、教員の依頼による開催のガイダンス／オリエンテーションに準じる形のガイダンスを実施している。

- ・図書館利用教育の範囲について

附属図書館が担う利用教育の範囲は、情報探索方法のみではなく、情報整理方法や情報表現方法までであると考えており、現在もそこまで実施している。

- ・学生以外を対象とした利用教育

大阪教育大学附属幼稚園の園児あるいは附属小学校の児童を対象に図書館見学会(館内案内、ブックトーク)を開いている。また、大阪教育大学の学校図書館司書教諭講習受講生へのガイダンス(図書館利用方法)を行っている。

(6) 上越教育大学附属図書館

- ・利用教育担当組織：学務部—学術情報課—情報サービス係(3名)

- ・学生数：大学院学校教育研究科(修士課程)…518(入学定員 300)、学校教育学部…688(入学定員 160) ※博士課程を除く

1) ガイダンス／オリエンテーション

①図書館主催

名称	開催時期	開催回数	所要時間	定員	参加受付(申込)方式	対象	配付資料	内容	備考
新入生図書館利用ガイダンス	4月	3日7回	1回30分	なし	当日受付	新入生	なし(『図書館利用案内』持参)	①図書館内の案内と利用説明、②図書自動貸出装置の使い方、③蔵書検索(OPAC)の使い方	※実施状況：5回97名
文献の探し方ガイダンス	4月	4日8回	1回50分	1回10名程度(先着順)	当日受付	全学生	『文献の探索方法について』	①蔵書検索(本学OPAC、Webcat)の実習、②雑誌記事索引、ERIC、PsycINFOの実習、③文献複写依頼、図書の借受方法について、④各種冊子体の使い方、⑤電子ジャーナルの使い方	※実施状況：8回65名
図書館利用ガイダンス	10月	4日8回	1回30分	なし	当日受付	全学生	なし(『図書館利用案内』持参)	①図書館内の案内と利用説明、②図書自動貸出装置の使い方、③蔵書検索(OPAC)の使い方	※実施状況：1回1名

名称	開催時期	開催回数	所要時間	定員	参加受付 (申込) 方式	対象	配付資料	内容	備考
文献の探し方ガイダンス	10月	4日8回	1回50分	1回10名程度(先着順)	当日受付	全学生	『文献の探索方法について』	①蔵書検索(本学OPAC, Webcat)の実習, ②雑誌記事索引, ERIC, PsycINFOの実習, ③文献複写依頼, 図書の借受方法について, ④各種冊子体の使い方, ⑤電子ジャーナルの使い方	※実施状況: 4回5名
サイエンス・ダイレクト利用説明会(初級)	11月	1日1回	90分	なし	要予約(メールにて受付)(当日申込可)	全学生	『サイエンスダイレクトトレーニング』, 『サイエンスダイレクトユーザー登録方法』, 『サイエンスダイレクトクイックレファレンスガイド』, 『SD演習』, 『エルゼビアアンケート用紙』, 『エルゼビアサイン用紙』, 『説明会アンケート』	①サイエンス・ダイレクト概要, 収録資料とリンク, ②利用の基礎(検索機能(演算子OR, AND, AND NOT, 近接演算子W/n), 検索ヒント, 表示出力機能, アラート(Alert)の設定と管理, ユーザー登録(Personal Profile登録)など, ③パソコンでの実習, または講師による実演, ④質疑応答	※1 実施状況: 1回5名 ※2 講師: ゼファー社講習担当者

②教員の依頼による開催

名称	対象	開催時期	受付時期	開催場所	開催単位	所要時間	内容	配付資料	教員への 周知	備考
申込み制図書館ガイダンス	不問	通年(日程は調整)	通年	教員の希望を基に調整(附属図書館以外の場所も可)	研究室ゼミ, 授業科目等	教員の希望を基に調整	図書館主催のガイダンスの内容を提示しつつ, 教員の希望を基に打合せをして決定	図書館主催のガイダンスでの配付資料を基に, 内容に応じて作成・配付	行っている(図書館掲示板にて広報)	※1 実施状況: 8回47名(2005年11月16日時点) ※2 附属図書館を実施場所とすることが多い
(事例) ・「音楽論文指導ゼミ」(学部3年生, 大学院1年生): 先行研究と参考文献の検索方法について ・「教育学研究法」(学部3年生): 和文雑誌記事の探し方 ※生徒指導分野必修科目										

2) ガイダンス／オリエンテーション以外の利用教育または利用支援

①図書館利用関連

- ・自館利用案内の提供

『上越教育大学附属図書館利用案内 2005』(パンフレット) ※他館利用方法の説明も含む

『利用案内』(Web ページ) ※他館利用方法の説明も含む

- ・図書館利用 FAQ の提供

『FAQ: よくある質問と答え』(Web ページ)

②情報探索関連

- ・情報探索方法の資料の提供

『利用案内』(Web ページ) ※資料の探し方についての解説がある

- ・Web 情報源へのリンク集の提供

『データベース検索』(Web ページ) ※学内で利用できるデータベースへのリンク集

『本学で利用可能な電子ジャーナル』(Web ページ) ※学内で利用できる電子ジャーナル, 及び, そのオンラインマニュアルへのリンク集

『リンク集』(Web ページ) ※情報探索に役立つリンク集 など

③その他

- ・カウンターにおける個別の利用教育または利用支援態勢

3) 特記事項

- ・学生の依頼によるガイダンスの開催

学生同士（グループ）からの依頼に応じて、教員の依頼による開催のガイダンス／オリエンテーションに準じる形のガイダンスを実施している

- ・情報リテラシー教育にかかわる動き

情報処理センターの教員（加えて企画室情報係）と図書館とが協力して、情報リテラシー教育を大学カリキュラムに組み込もうという動きがある

(7) 宮城教育大学附属図書館

- ・利用教育担当組織：附属図書館一情報サービス係（2名）
- ・学生数：大学院教育学研究科（修士課程）…129（入学定員 57），教育学部…1623（入学定員 345），特殊教育特別専攻科…12（入学定員 45）

1) ガイダンス／オリエンテーション

① 図書館主催

名称	開催時期	開催回数	所要時間	定員	参加受付（申込）方式	対象	配付資料	内容	備考
新入生ガイダンス	4月	5日5回	1回30分	なし	要予約（カウンターにて受付）（当日申込可）	新入生	『図書館利用案内2005』、『OPACを使いこなそう』	①図書館の利用方法、②図書の探し方（宮城教育大学所蔵資料の探し方：OPACの使い方）、③館内ツアー	※1 実施状況：5回36名 ※2 実習は10名まで（設置端末数）
資料の探し方講習会	5月	5日5回（各回別内容（但し第3回のみ第2回と同内容））	1回30分	なし	要予約（カウンターにて受付）（当日申込可）（全回参加／特定回のみ参加とも可）	全学生	『学術情報検索の手引き：図書館を上手に活用するために』（改訂版）	（論文等を書くための資料の探し方・使い方について）：1）図書の探し方（OPAC、NACSIS-Webcat、NDL-OPACの使い方等）、2）論文の探し方（雑誌記事索引、CiNii（NII論文情報ナビゲーター）等）、3）電子ジャーナルの利用方法（EBSCOhost、CiNii（NII論文情報ナビゲーター）等）、4）新聞記事の探し方（朝日新聞記事データベースDNA、河北新報データベースKD等の使い方）	※1 実施状況：5回48名 ※2 実習は10名まで（設置端末数）
資料の探し方講習会	11月	5日5回（説明3回同内容、実習2回同内容）	1回40分	なし	要予約（カウンターにて受付）（当日申込可）（全回参加／特定回のみ参加とも可）	学部3年生以上、院生、研究生その他	『学術情報検索の手引き：図書館を上手に活用するために』（改訂版）	（論文等を書くための資料の探し方・使い方について）：1）雑誌論文の探し方・新聞記事の探し方（「雑誌記事索引」を中心に電子ジャーナル、その他のデータベースの使い方や所蔵館の探し方を説明）、2）実習（職員がアシスタントとして実習を手伝う）	※1 実施状況：5回20名 ※2 実習は10名まで（設置端末数）

② 教員の依頼による開催

名称	対象	開催時期	受付時期	開催場所	開催単位	所要時間	内容	配付資料	教員への周知	備考
(なし)	不問	通年（日程は調整）	通年	教員の希望を基に調整（附属図書館以外の場所も可）	研究室ゼミ、授業科目等	教員の希望を基に調整	図書館主催のガイダンスの内容を提示しつつ、教員の希望を基に打合せをして決定	図書館主催のガイダンスでの配付資料を基に、内容に応じて作成・配付	行っている（館報にて広報）	※1 実施状況：4回52名 ※2 附属図書館を実施場所とすることが多い
(事例) ・「国語研究室ゼミ」（学部3年生）：雑誌論文の探し方・新聞記事の探し方（「雑誌記事索引」を中心に電子ジャーナル、その他のデータベースの使い方や所蔵館の探し方を説明）、実習（職員がアシスタントとして実習を手伝う）										

2) ガイダンス／オリエンテーション以外の利用教育または利用支援

① 図書館利用関連

- ・自館利用案内の提供

『図書館利用案内：Library Guide：2005』（リーフレット／Web ページ） ※他館利用方法の説明も含む

- ・自館利用方法の資料の提供

『こもれび No.108』「図書館からのインフォメーション」（パンフレット／PDF） ※図書館利用についての情報コーナー など

②情報探索関連

- ・情報探索方法の資料の提供

『学術情報検索の手引き：図書館を上手に活用するために：改訂版』（冊子体／PDF）

- ・Web 情報源へのリンク集の提供

『情報検索のページ』（Web ページ） ※書誌／所在情報検索サイト，及び，学内において利用できる電子ジャーナル／データベースへのリンクと解説がある

『教育学関係情報のページ』（Web ページ） ※教育学一般のパスファインダー など

③その他

- ・カウンターにおける個別の利用教育または利用支援態勢

3) 特記事項

- ・情報リテラシー教育への取り組み

情報リテラシー教育の一環としてのコンピュータソフトウェアの講習会は，情報処理センター（キャリアサポートセンター）が担当している。

- ・学生の依頼によるガイダンスの開催

学生（1名，グループとも）からの依頼に応じて，教員の依頼による開催のガイダンス／オリエンテーションに準じる形のガイダンスを実施している。

(8) 福岡教育大学附属図書館

- ・利用教育担当組織：図書館課—図書館サービス係（2名）

- ・学生数：大学院教育学研究科（修士課程）…205（入学定員 100），教育学部…2976（入学定員 630），特殊教育特別専攻科…12（入学定員 30），言語障害教育教員養成課程…13（入学定員 20）

1) ガイダンス／オリエンテーション

①図書館主催

名称	開催時期	開催回数	所要時間	定員	参加受付（申込）方式	対象	配付資料	内容	備考
図書館ガイダンス	4～5月	20日20回	1回60分（最長）	なし（1名から）	要予約（カウンターにて受付）	新入生（在校生も可）	『福岡教育大学附属図書館利用案内2005』	（以下より実施希望の内容を組合せて申し込む）：①図書館の利用について（貸出・返却など），②館内案内，③パソコンによる図書，雑誌の探し方，④マガジンプラス（雑誌論文データベース）の検索について，⑤他大学図書館の利用について（直接利用，文献複写，現物貸借など），⑥インターネットの利用について	※1 実施状況：0回 ※2 平均所要時間は30～45分 ※3 個人対象のガイダンスであるが、『授業・ゼミ単位』でのガイダンスとしても受け付けている（別途教員宛に文書を配布して募集している）

名称	開催時期	開催回数	所要時間	定員	参加受付 (申込) 方式	対象	配付資料	内容	備考
図書、雑誌、雑誌論文の探し方講習会(情報リテラシー支援)	11～12月	9日9回	1回90分	1回10名	要予約 (カウンターにて受付)	全学生	『図書・雑誌、雑誌論文の探し方：基本編』(ママ)、『図書・雑誌、雑誌論文の探し方：基本編：演習問題』(ママ)	レポート・卒業研究作成のための資料収集方法、図書、雑誌、雑誌論文の検索方法について学び、各自模擬検索を行う(情報探索の基礎、福岡教育大学の蔵書検索、他大学、国立国会図書館、公共図書館の蔵書検索、特定のテーマによる蔵書検索、雑誌論文検索、図書館間相互利用、演習)	※1 実施状況：7回9名 ※2 図書館全職員により実施

②教員の依頼による開催

名称	対象	開催時期	受付時期	開催場所	開催単位	所要時間	内容	配付資料	教員への 周知	備考
『授業・ゼミ単位』の図書館ガイダンス	不問	通年(日程は調整)	通年	附属図書館	研究室ゼミ、授業科目等	1回60分(最長)	図書館主催のガイダンスの内容を提示しつつ、教員の希望を基に打合せをして決定<内容の選択肢>①図書館の利用について(貸出・返却など)、②館内案内、③パソコンによる図書、雑誌の探し方、④マガジンプラス(雑誌論文データベース)の検索について、⑤他大学図書館の利用について(直接利用、文献複写、現物貸借など)、⑥インターネットの利用について	『福岡教育大学附属図書館利用案内 2005』	行っている(教員宛文書「『授業・ゼミ単位』の図書館ガイダンスについて(お知らせ)」にて広報)	※1 実施状況：12回261名 ※2 実施回数のうち5割は、大学入学的科目である「基礎セミナーA」が占める(担当教員は全て別人) ※3 4～5月に実施の、学生個人を対象とする「図書館ガイダンス」に合わせて、文書により教員に通知
<small>(事例)</small> ・「基礎セミナーA」(学部1年生)：図書館の利用について(貸出・返却など)、館内案内、パソコンによる図書、雑誌の探し方、マガジンプラス(雑誌論文データベース)の検索について、他大学図書館の利用について(直接利用、文献複写、現物貸借など)、インターネットの利用について										

2) ガイダンス／オリエンテーション以外の利用教育または利用支援

①図書館利用関連

・自館利用案内の提供

『福岡教育大学附属図書館利用案内 2005』(パンフレット/PDF) ※他館利用方法の説明も含む

『福岡教育大学附属図書館利用案内 2005』[簡略版](パンフレット/PDF) ※他館利用方法の説明も含む

『利用案内』(Web ページ) ※他館利用方法の説明も含む

・図書館利用 FAQ の提供

『FAQ (よくある質問と回答集)』(Web ページ)

②情報探索関連

・情報探索方法の資料の提供

『利用案内』(Web ページ) ※資料の探し方についての解説がある

『ひろば No.131』「文献検索と論文や図書の入手方法等について」(パンフレット/PDF) など

・Web 情報源へのリンク集の提供

『電子ジャーナルガイド』(Web ページ) ※学内で利用できる電子ジャーナルへのリンクと解説がある

『リンク集』(Web ページ) など

③その他

- ・カウンターにおける個別の利用教育または利用支援態勢

3) 特記事項

- ・インターネット情報資源の探索方法の指導

『図書、雑誌、雑誌論文の探し方講習会』（情報リテラシー支援）において、これまでに扱ってきた図書、雑誌、雑誌論文の探索方法に加え、2006年度には、インターネット情報資源の探索方法（検索エンジン等）についても取りあげることを予定している。

- ・図書館利用教育の範囲について

附属図書館が担う利用教育の範囲は、情報探索方法のみではなく、情報整理方法や情報表現方法までであると考えている（現在の実施は情報探索方法まで）。

(9) 北海道教育大学附属図書館（札幌館）

- ・利用教育担当組織：事務局—学術情報室—学術情報グループ—情報サービス担当（1名）
- ・学生数：大学院教育学研究科（修士課程）札幌・岩見沢校…192（入学定員 43+9），教育学部…1263（入学定員 270），特殊教育特別専攻科（重複障害教育専攻）…9（入学定員 15）

1) ガイダンス／オリエンテーション

①図書館主催

名称	開催時期	開催回数	所要時間	定員	参加受付（申込）方式	対象	配付資料	内容	備考
大学院生新入生ガイダンス	4月	1日1回（全学オリエンテーション中に組み込まれている）	1回60分	なし	受付不要	院新入生	『平成17年度大学院生用『図書館案内』<ガイダンス資料>』、『北海道教育大学附属図書館図書館報. No.74』、『図書館利用案内2005』、『CiNiiの使い方』、『現物貸借申込書』、『文献複写申込書』	①図書館利用説明（本学図書館の利用について、図書・雑誌の探し方、文献検索について、電子ジャーナル、その他ネットワークを介した学術資料、各キャンパスの図書館ホームページ）、②館内案内、③OPAC検索、CiNiiなどの説明	※1 実施状況：1回50名 ※2 院新入生は受講必須（但し同キャンパスからの進学者は必須ではない）
新入生ガイダンス	4月	1日1回（全学オリエンテーション中に組み込まれている）	1回20分	なし	受付不要	学部新入生	『図書館利用案内2005』、『北海道教育大学附属図書館図書館報. No.74』	図書館利用説明（配布資料をもとに）	※1 実施状況：1回300名 ※2 学部新入生は受講必須
図書館・春のガイダンス	4～5月	33日66回	1回20～30分	なし（1名から）	当日受付	学部新入生（在学生も可）	『図書館ツアー資料』（1）のみ）、『春のガイダンス・OPACの使い方』（2）のみ、『OPACの使い方：検索のコツ編』を含む）	1) 図書館ツアー、2) OPACの使い方（実習を含む）	※1 実施状況：2回2名 ※2 1) または2) のどちらかを選択して受講する
文献検索講習会	6～8月	20日20回（1）OPAC・WebcatPlus編6回、（2）CiNii編6回、（3）電子ジャーナル編5回、（4）海外文献検索編3回）	1回30～60分程度	5名	当日受付（全コース参加／特定コースのみ参加とも可）	全学生	『文献検索と入手のしかた』（全コース）、『OPAC・WebcatPlusを使って文献をさがそう！』（1）のみ）、『CiNiiを使って文献をさがそう！』（2）のみ）、『文献検索講習会：電子ジャーナル編』（3）のみ）、『文献検索講習会：海外文献検索編』（4）のみ）	1) OPAC・WebcatPlus編（OPACとWebcatPlusを使用して、札幌キャンパスで所蔵している図書を検索し、それぞれの場合の入手方法を説明）、2) CiNii編（CiNiiを使用して、論文検索（国内文献）と入手方法を説明）、3) 電子ジャーナル編（契約しているEBSCOhost, SpringerLink, WileyInterScienceを使用して、論文検索（海外文献）と入手方法を説明）、4) 海外文献検索編（PubMed, IngentaConnect, DOAJ等の自宅からでも利用できる無料の海外データベースの検索方法を説明）	※実施状況：7回15名

名称	開催時期	開催回数	所要時間	定員	参加受付 (申込) 方式	対象	配付資料	内容	備考
文献検索講習会	10～12月	9日9回 (1) 国内 文献検索 コース4 回, 2) 海 外文献検 索コース2 回, 3) 電 子ジャー ナルコー ス3回)	1回60分	5名	当日受付 (全コー ス参加/ 特定コー スのみ参 加とも 可)	全学生	『文献検索と入手のしかた』(全コース), 『CiNiiを使って文献をさがそう!』(1)のみ), 『文献検索講習会: 海外文献検索編』(2)のみ), 『文献検索講習会: 電子ジャーナル編』(3)のみ)	1) 国内文献検索コース(CiNiiをメインに使用して, 論文検索(国内文献)と入手方法を説明, またCiNii以外のデータベースも紹介), 2) 海外文献検索コース(PubMed, IngentaConnect, ERIC等の自宅からでも利用できる無料の海外データベースの検索方法および文献の入手方法を説明), 3) 電子ジャーナルコース(契約しているEBSCOhost, SpringerLink, WileyInterScienceを使用して, 論文検索(海外文献)と入手方法を説明)	※実施状況: 3回3名

②教員の依頼による開催

名称	対象	開催時期	受付時期	開催場所	開催単位	所要時間	内容	配付資料	教員への 周知	備考
ゼミガイダンス	不問	通年(日程は調整)	通年	教員の希望を基に調整(附属図書館以外の場所も可)	研究室ゼミ, 授業科目等	教員の希望を基に調整	図書館主催のガイダンスの内容を提示しつつ, 教員の希望を基に打合せをして決定	図書館主催のガイダンスでの配付資料を, 内容に応じて組合せて配付	行っている(ホームページ「文献探索講習会のお知らせ」にて広報)	※1 実施状況: 3回20名 ※2 附属図書館を実施場所とすることが多い
(事例) ・「日本史ゼミ」(学部3～4年生): 図書館の利用案内, 情報検索の方法(図書, 雑誌)										

2) ガイダンス/オリエンテーション以外の利用教育または利用支援

①図書館利用関連

- ・自館利用案内の提供

『LIBRARY GUIDE: 図書館利用案内 2005』(リーフレット) ※他館利用方法の説明も含む

『図書館利用案内(学内者用)』(Web ページ) ※他館利用方法の説明も含む

- ・図書館利用 FAQ の提供

『学生さんのための図書館 Q&A』(Web ページ)

②情報探索関連

- ・情報探索方法の資料の提供

『文献検索と入手のしかた』(リーフレット/PDF)

『北海道教育大学附属図書館図書館報 No.76』「図書館活用ガイド」(パンフレット/PDF) など

- ・ガイダンス/オリエンテーションにおける配付資料の提供(実施後)

『CiNii を使って論文をさがそう!』(パンフレット/PDF)

『文献検索講習会: 電子ジャーナル編』(パンフレット/PDF) など

- ・データベース等利用マニュアルの提供

『EBSCOhost データベース検索ガイド』(PDF) ※EBSCO Information 提供 など

- ・Web 情報源へのリンク集の提供

『北海道教育大学附属図書館情報検索メニュー』（Web ページ）

『学術情報』（Web ページ） ※学術情報サイトへのリンクと解説がある など

③その他

- ・カウンターにおける個別の利用教育または利用支援態勢

3) 特記事項

- ・情報リテラシー教育への取り組み

次に示す実践例「情報リテラシープログラム」は、北海道教育大学附属図書館の中期計画（2004～2009年度）の（1）利用者支援サービスの充実に関する計画—①情報リテラシー教育に関する計画—“図書館の利用ガイダンスと情報リテラシー教育を統合した総合的な利用者教育プログラムを検討する”を受けて、授業に組み込む形のプログラムを図書館が計画し、その試行のために札幌館長から当該科目担当教員に授業に組み込んでもらいたい旨依頼して了解をとり、2005年度に実施したものである。本プログラムは、全学の他の授業においても実施してもらうことを想定して計画・実施したものであり、他館長宛、また評議会や教授会を通して広く教員に、試行で使用したシナリオ、及び、資料（修正済）を参考にして授業に組み込んでいってほしい旨の呼びかけがなされている。

名称	開催時期	開催回数	所要時間	定員	参加受付（申込）方式	対象	配付資料	内容	備考
情報リテラシープログラム（試行版）	12月	2日2回	1回90分	なし	受付不要（全回参加）	「情報機器操作」受講生（国際理解教育課程1年生）対象	『レポート作成のための学術情報収集入門：図書検索編』（1）のみ）、『文献検索実習問題』（1）のみ）、『レポート作成のための学術情報収集入門：国内雑誌論文編』（1）のみ）、『論文検索実習問題』（1）のみ）、『電子ジャーナルの使い方』（2）のみ）、『練習問題』（2）のみ）	レポート作成のための学術情報収集入門：1）（図書検索・雑誌論文検索・新聞記事検索の説明（PowerPoint使用）、OPACの使い方（Webcat Plus、NDL-OPACの紹介）、CiNiiの使い方、朝日新聞・北海道新聞データベースの使い方、練習問題）、2）（電子ジャーナルの使い方の説明（PowerPoint使用）、電子ジャーナル練習問題）	※実施状況：2回70名（同一学生が2回連続受講）

- ・他の4館の利用教育とのかかわり

北海道教育大学附属図書館は札幌館を合わせた5館で構成されているが、利用教育は各館独自に行われており、統一することはしていない（ホームページも各館運用であるが、全館共通トップページを含めたホームページの刷新を2006年度中に予定している）。

(10) 東京学芸大学附属図書館

- ・利用教育担当組織：事務局—学術情報部—情報サービス課—情報リテラシー係（2名）
- ・学生数：大学院教育学研究科（修士課程）…806（入学定員309）、教育学部…4978（入学定員1065）、特殊教育特別専攻科…27（入学定員30） ※博士課程を除く

1) ガイダンス／オリエンテーション

①図書館主催

名称	開催時期	開催回数	所要時間	定員	参加受付（申込）方式	対象	配付資料	内容	備考
新入生のためのオリエンテーション	4月	5日13回	1回40分程度	なし	当日受付	新入生（在学生も可）	『LIBRARY GUIDE 2005』	①館内ツアー（館内案内、図書館の利用方法の説明）、②書庫利用方法の説明	※1 実施状況：13回522名 ※2 通常の書庫利用説明会を兼ねる

名称	開催時期	開催回数	所要時間	定員	参加受付 (申込) 方式	対象	配付資料	内容	備考
連合大学院オリエンテーション	4月	1日1回 (大学院課が実施するオリエンテーション中に組み込まれている)	1回5～10分	なし	要予約 (カウンターにて受付)	連合大学院新入生	『LIBRARY GUIDE 2005』	図書館の概要・利用方法の説明(講義方式)	※1 実施状況: 1回26名 ※2 連合大学院新入生は受講必須
文献の探し方オリエンテーション(前期日程)	5～6月	38日38回 (申し込みに応じて実施)	1回60分程度	4人	要予約 (カウンターにて受付)	全学生	配付資料: 『文献の探し方オリエンテーション: あなたにもできる文献探索』(プリント), 『TIPS for LIBRARY』①～⑨及び『CiNii利用ガイド: 国内文献を探す』(うち必要なもののみ配付)	①学芸大OPACやWebcatなどを利用した資料の所在確認, ②CiNiiなどを利用した論文の探し方, ③テーマに合わせた文献の探し方(基礎)	※1 実施状況: 21回34名 ※2 ②及び③を受講するには, 事前に①の内容をマスターしていることが必要(打合せ時にインタビューにより担当者が判断) ※3 参加予約はレファレンスデスクにて行い, その際にメニューの組合せや内容を, 要望等を確認しながら調整
電子ジャーナル講習会(前期日程)	6月	3日3回	1回90分程度	50名	要予約 (参加申込フォーム(Webページ)にて受付)(全コース参加/特定コースのみ参加とも可)	全学生, 教職員	1) 『電子ジャーナルを活用しよう!』, 『論文入手の流れ』, 『AtoZユーザーマニュアル』, 『実習課題』, 2) 『クイックリファレンスガイド』, 『演習課題』, 3) 『EBSCOhostデータベース検索ガイド』, 『PsycINFO日本語ガイド』『ERIC日本語ガイド』『MyEBSCOご利用マニュアル』	1) 入門編(分野: 全般)(電子ジャーナルとは何か?(解説), 電子ジャーナルの基本的な利用法～Science Directを通して～(デモンストレーション及び実習), 質疑応答), 2) SCOPUS(分野: 全般...特に自然科学) <講師: ゼファー社講習担当者>(SCUPUSの利用法(デモンストレーション及び実習), 質疑応答), 3) PsycINFO・ERIC(分野: 心理学・教育学) <講師: EBSCOhost社講習担当者>(PsycINFO・ERICの利用法(デモンストレーション及び実習), 質疑応答)	※実施状況: 3回26名 (+図書館職員8名)
文献の探し方オリエンテーション(後期日程)	10～11月	26日52回 (申し込みに応じて実施)	1回60分程度	4人	要予約 (参加申込フォーム(Webページ)にて受付)	全学生	『論文作成お役立ち情報～データベース検索編～』(『図書館ニュース』Vol.34, No.2の部分コピー), 『TIPS for LIBRARY』①～⑨(うち必要なもののみ配付)	①学芸大OPAC検索(学芸大附属図書館の蔵書の所在を調べる), ②Webcat検索(他大学・研究機関の蔵書の所在を調べる), ③CiNii検索(国内で発表された論文を探す), ④学外図書館の利用方法(学外図書館への訪問のしかた), ⑤文献取り寄せの方法(学内にはない文献を取り寄せて入手する方法), ⑥学位論文の利用方法(学位論文の検索から利用までの手順), ⑦その他(項目にはない希望内容)	※1 実施状況: 18回23名 ※2 内容は選択して組合せる

名称	開催時期	開催回数	所要時間	定員	参加受付 (申込) 方式	対象	配付資料	内容	備考
電子ジャーナル講習会 (後期日程)	11～12月	4日4回	1回60分/ 90分	25名/50 名	要予約 (参加申 込フォーム(Web ページ) にて受 付)(全 コース参 加/特定 コースの み参加と も可)	全学生, 教職員	1)及び2)『電子 ジャーナルを活用し よう!』、『論文入 手の流れ』、『AtoZ ユーザーマニユア ル』、『実習課 題』, 3)『東京学芸 大学附属図書館ホ ームページからEric・ PsycINFOを利用する 流れ』, 『EBSCOhostデー タベース検索ガイ ド』, 『PsycINFO日 本語ガイド』『ERIC 日本語ガイド』 『PsycARTICLES日 本語ガイド』, 4) 『サイエンスダイレ クトクイックレファ レンスガイド』, 『SDユーザー登録方 法』, 『SDトレーニ ング』, 『東京学芸 大学:SD演習』, 『東京学芸大学附属 図書館ホームページ からScience Direct を利用する流れ』	1)及び2)入門編(分 野:全般)(電子ジャー ナルとは何か?(解 説),電子ジャーナルの 基本的な利用法(デモ ンストレーション及び実 習),質疑応答),3) ERIC・PsycINFO(分 野:心理学・教育学)< 講師:EBSCO社講習担 当者>(ERIC・ PsycINFOの利用法(デ モンストレーション及び 実習),質疑応答), 4)Science Direct(分 野:自然科学)<講師: ゼファー社講習担 当者>(Science Directの利 用法(デモンストレー ション及び実習),質疑 応答)	※実施状況:4回23名 (+図書館職員4名)
書庫利用講習会	通年(1日 3回)	—	1回15分	なし	当日受付	全学生	『書庫入庫利用の ルール』	書庫利用方法の説明(書 庫の利用手続,資料配 置の概要,電動書架の操 作方法,非常時の対応な ど)	※実施状況:統計な し

②教員の依頼による開催

名称	対象	開催時期	受付時期	開催場所	開催単位	所要時間	内容	配付資料	教員への 周知	備考
留学生オリエンテー ション(前期)	留学生	4月	前年度	附属図書 館	留学生グ ループ	1回60分	①館内ツアー(館内案 内,図書館の利用方法 の説明),②書庫利用 方法の説明	『Using the library』(ホ ームペー ジ英語版利 用案内ペー ジを加工 したもの)	行ってい る	※1 実施状況:1回 0名 ※2 通常の書庫利 用説明会を兼ねる
留学生オリエンテー ション(後期)	留学生	10月	当該年度 前期	附属図書 館	留学生グ ループ	1回60分	①館内ツアー(館内案 内,図書館の利用方法 の説明),②書庫利用 方法の説明	『Using the library』(ホ ームペー ジ英語版利 用案内ペー ジを加工 したもの)	行ってい る	※1 実施状況:1回 9名 ※2 通常の書庫利 用説明会を兼ねる
授業支援	不問	通年(日 程は調 整)	通年	教員の希 望を基に 調整(附 属図書館 以外の場 所も可)	研究室ゼ ミ,授業 科目等	教員の希 望を基に 調整	図書館主催のガイダ ンスの内容を提示しつ つ,教員の希望を基 に打合せをして決定	内容ごとに作成し てある資料を組合 せて配付すると ともに,内容にあ わせた資料,演習問 題も併せて作成し 配付	行ってい ない	※1 実施状況:15 回217名 ※2 附属図書館を 実施場所とするこ とが多い
	(事例)									
	・「経済学基礎演習Ⅰ」(学部2年生):文献検索実習(OPAC, Webcat, CiNii)									
	・「文献・情報へのアクセス」(学部1年生):OPAC実習, 班別ケーススタディ(現物へのアクセス)									

2) ガイダンス/オリエンテーション以外の利用教育または利用支援

①図書館利用関連

- ・自館利用案内の提供

『LIBRARY GUIDE 2005:東京学芸大学附属図書館利用案内』(リーフレット/PDF)

- ・自館利用案内ページの提供

『図書館利用案内』(Web ページ) ※他館利用方法の説明も含む

- ・他館利用方法の説明資料の提供

『TIPS for LIBRARY』「⑨学外の図書館を使う」(リーフレット/PDF)

②情報探索関連

- ・ TIPS（図書館活用のためのガイドシリーズ）の配布・提供
『TIPS for LIBRARY』 「①附属図書館ホームページ」；「②図書・雑誌を探す」；「③学位論文を探す」；「④学芸大 OPAC を使う」；「⑤Webcat を使う」；「⑥CiNii を使う」；「⑦データベース」；「⑧E-TOPIA を使う」；「⑨学外の図書館を使う」（いずれもリーフレット／PDF）
※互いにリンクしている
- ・ 情報探索にかかわる記事の館報への掲載
『図書館ニュース Vol.34, No.2』 「論文作成お役立ち情報：データベース検索編」（パンフレット／PDF） など
- ・ ガイダンス／オリエンテーションにおける配付資料の提供（実施後）
『電子ジャーナルを活用しよう！：Science Direct を中心に』（PDF）
『電子ジャーナル講習会：入門編：実習課題』（PDF） など
- ・ Web 情報源へのリンク集の提供
『サイトの道案内』（Web ページ） ※サイトマップの要素をもつが情報探索にかかわるカテゴリが設けられている
『データベース一覧』（Web ページ）
- ・ 教育情報ポータルサイトの提供
『E-TOPIA』（Web サイト） ※教育にかかわる情報のみでなく、サイト内「パスファインダー」の“レファレンスツール”には、情報の集め方・調べ方・まとめ方についての情報が提供されている

③その他

- ・ カウンターにおける個別の利用教育または利用支援態勢

3) 特記事項

- ・ 情報リテラシー教育への取り組み
『授業支援』の一環として、2007年度より、1年生前期必修科目「情報処理」の全28クラスにおいて、それぞれのクラスの1コマを図書館職員が担当し、図書館の利用方法も含めた情報探索についての授業（自身の課題・目的により適した基本ツールを選ぶ力を身につけるまたは養うことをねらいとする）を行うことが決定している。この実施により、学生の図書館利用にかかわる力の底上げを図り、自由参加のガイダンス／オリエンテーションの開催回数を少なくすることができるかとみている。
- ・ 学生以外を対象とした利用教育
公開講座の一環として、協定を締結した高等学校の生徒を対象に、高大連携オリエンテーション（附属図書館の概要説明、館内ツアー）を催している。

(11) 愛知教育大学附属図書館

- ・ 利用教育担当組織：図書館課一参考係（2名）
- ・ 学生数：大学院教育学研究科（修士課程）…351（入学定員150）、教育学部…3807（入学定員875）、特殊教育特別専攻科…38（入学定員70）

1) ガイダンス／オリエンテーション

①図書館主催

名称	開催時期	開催回数	所要時間	定員	参加受付 (申込) 方式	対象	配付資料	内容	備考
附属図書館利用説明会	4月	13日16回	1回60分	20名(先着順)	当日受付	新入生 (在学生も可)	『図書館利用説明ガイド2005』	①図書館ツアー(館内施設等の案内・説明), ②ホームページ紹介(図書館のホームページの説明), ③蔵書検索方法(検索機を使用し図書を検索)	※1 実施状況: 11回27名 ※2 開催: 閲覧係
附属図書館利用説明会: 論文作成のための文献収集法	7月	5日9回	1回45分	20名(先着順)	要予約 (メールまたはカウンターにて受付), 空があれば当日受付可	全学生	『図書館利用説明ガイド: 論文作成のための文献収集法2005』(2005年7月改訂)	①論文作成のための文献収集法の説明, ホームページの紹介, 図書館の上手な利用法, 雑誌記事索引, CiNii(電子ジャーナルNACSIS-ELSを含む)の説明と実習, 学内蔵書検索(学内OPAC)・NACSIS-Webcat(国内OPAC)の説明<2F蔵書検索コーナー>, ②書庫内の案内<1F書庫>	※実施状況: 6回24名
附属図書館利用説明会: 論文作成のための文献収集法	11~12月	5日9回	1回45分	20名(先着順)	要予約 (メールまたはカウンターにて受付), 空があれば当日受付可	全学生	『図書館利用説明ガイド: 論文作成のための文献収集法2005』(2005年11月改訂)	①論文作成のための文献収集法の説明, ホームページの紹介, 図書館の上手な利用法, 雑誌記事索引, CiNii(電子ジャーナルNACSIS-ELSを含む)の説明と実習, 学内蔵書検索(学内OPAC)・NACSIS-Webcat(国内OPAC)の説明<2F蔵書検索コーナー>, ②書庫内の案内<1F書庫>	※実施状況: 8回39名
10分間ガイド	通年	—	10分程度	なし	当日受付	全学生, 教職員	なし	1) CiNiiの説明, 2) 電子ジャーナル(洋雑誌・入門編)の説明	※1 実施状況: 8回10名 ※2 1) または2) を選択 ※3 2005年度はホームページでは広報せず

②教員の依頼による開催

名称	対象	開催時期	受付時期	開催場所	開催単位	所要時間	内容	配付資料	教員への 周知	備考
(なし)	不問	通年(日程は調整)	通年	附属図書館	研究室ゼミ, 授業科目等	教員の希望を基に調整	図書館主催のガイダンスの内容を提示しつつ, 教員の希望を基に打合せをして決定	図書館主催のガイダンスでの配付資料を基に, 内容に応じて作成・配付	あまり行っていない	※実施状況: 5回73名
(事例) ・「社会科学入門」(学部1年生): 図書館の上手な利用法, 学内OPACの利用方法(実習を含む), NACSIS-Webcatの利用方法, CD-ROM(新聞記事索引)の利用方法(実習を含む), 書庫内資料の利用について, 書庫内の案内 ・「国語学ゼミ」(学部3年生): 論文作成のための文献収集法の説明, ホームページの紹介, 学内蔵書検索(学内OPAC)及びNACSIS-Webcat(国内OPAC)の利用法, 図書館の上手な利用法, 雑誌記事索引及びCiNii(電子ジャーナルNACSIS-ELSを含む)の利用法(実習を含む), 書庫内の案内, チェンバレン文庫の案内, 学外図書館の利用法										

2) ガイダンス/オリエンテーション以外の利用教育または利用支援

①図書館利用関連

- ・自館利用案内の提供

『図書館利用案内 2005』(リーフレット) ※他館利用方法の説明も含む

- ・自館利用案内ページの提供

『愛知教育大学附属図書館利用案内(学内者用)』(Web ページ) ※他館利用方法の説明も含む

②情報探索関連

- ・ガイダンス/オリエンテーションにおける配付資料の提供(実施後)

『図書館利用説明ガイド：論文作成のための文献収集法』（冊子体） など

- ・ Web 情報源へのリンク集の提供

『愛知教育大学附属図書館リンク集』（Web ページ）

③その他

- ・ カウンターにおける個別の利用教育または利用支援態勢

3) 特記事項

- ・ オーダーメイドのガイダンスの実施

現在のガイダンス／オリエンテーションをより対象者に適した利用教育の機会とするために、オーダーメイドのガイダンスの実施を 2006 年度に新たに計画している。

- ・ 図書館利用教育の範囲について

附属図書館が担う利用教育の範囲は、情報探索方法のみではなく、情報整理方法や情報表現方法までであると考えている（現在の実施は情報探索方法まで）。また、「将来教員になり情報活用を子どもに指導することになる学生」に対して利用教育を行っている旨を意識している。

4. 図書館利用教育の傾向

本章においては、調査結果をもとに、教員養成大学の附属図書館における図書館利用教育の傾向をとらえることとする。

4.1 ガイダンス／オリエンテーション（図書館主催）

「図書館利用方法」、「情報探索方法（総論）」、及び、「情報探索方法（各論）」という内容について、これらはレベルの異なるものとして存在している。このことに、「図書館利用方法」を前期初め、「情報探索方法（総論）」を前期半ば、及び、後期初めから半ば、「情報探索方法（各論）」を後期半ばに集中して開催していることを合わせて考えると、段階を踏んで進める教育プログラムが存在していることがわかる。これは、新入生であっても、順に参加すれば 1 年間で一定の教育を受けることができるしくみがあるということである。しかしながら、これらの開催案内には新入生が主である場合の他は対象が示されておらず、また受講の順序が設けられていないことも多い。これより、自分が受講できるか否かというレベルについての判断が困難であるとみられる。なお関連事項として、新構想 3 大学においては、大学院生の割合が高いためか、「情報探索方法」の内容が先行研究の探索など論文作成を前提としたものであり、その時期も前期初め、あるいは前年度の後期半ばの開催となっている。

「図書館利用方法」における館内ツアーはいずれの館においても行われているが、単なる施設の案内ではなく、接架しての探索に役立つように、資料の配置を説明に組み込んだ内容となっている。自館 OPAC の利用方法についてもほぼ必ず併せて取りあげており、実習まではできなくとも説明あるいは照会までは行っている。また自館作成の図書館利用案内（パンフレット／リーフレット）を配付して説明するため、利用上のマナーや規則にもふれるが、要点の説明にとどまっている。

「情報探索方法」を中心にみると、取りあげるツールは、自館 OPAC から始まり（「図書館利用方法」においても取りあげている）、順に Webcat, NACSIS-IR/CiNii, そして、自館において利用可能なデータベースや電子ジャーナルとなっている。すなわち、特殊なものから一般的なもの、そしてまた特殊なもの、という流れがみられる。但し特殊なものとはいえ、各館により異なる利用可能なデータベースや電子ジャーナルについては、ERIC や PsycINFO といった教育学系あるいは心理学系の

データベースを取りあげている他は、教育学にかかわるもの、あるいは特化したものはみられない。

また「情報探索方法」においては、総論、各論とも、そしていずれの館も、説明を行った上で検索等の実習を行う形式をとっている。また、配付資料についても、利用方法のマニュアルをも含めると、多くの場合、自館での説明・実習に適するように自作をしている。すなわち、検索方法の知識のみではなく、検索技能の習得に力点がおかれていることがわかる。

ところで、「情報表現方法」については、1館において、各種ソフトの基礎的操作方法を内容とした実習形式により開催されているのみである。これは、情報活用能力を具え、教育現場において情報メディアを活用できる教員（あるいは社会人）を育成することをねらいとしている。その他、これを内容としたガイダンス／オリエンテーションの開催はしていないが、教員に必要な情報活用能力（「情報表現方法」を含む）の育成に図書館もかかわるべきである、と考えている館も2館みられる。

なお、学内の情報処理センターが講習会等を通して情報メディアの活用にかかわる教育を行っている場合もあり、そのため「情報表現方法」について扱わないとする館も存在する。

4.2 ガイダンス／オリエンテーション（教員の依頼による開催）

＜教員の依頼に応じて開催するもの＞

図書館主催のガイダンス／オリエンテーションの「図書館利用方法」、及び、「情報探索方法」の内容を基本として提示しつつ、教員の希望を基に取舍選択をして内容を決定している。これに年間を通して受付、開催をしていることを考え合わせると、既にある図書館主催のガイダンス／オリエンテーションを基に、開催時期を予測できない教員の依頼に応えようとする姿勢をとっていることがわかる。

＜全学的な要請により開催するもの＞

大学（教員）からの要請により、1年次の前期初めの必修科目において、新入生全員に「図書館利用方法」（OPACの利用方法を含む）を内容とするガイダンス／オリエンテーションを開催している。このガイダンス／オリエンテーションを開催している館は、「図書館利用方法」を内容とするガイダンス／オリエンテーションを図書館主催では開催しない、「情報探索方法」を内容とする図書館主催のガイダンス／オリエンテーションの開催時期が比較的早いなど、その他のガイダンス／オリエンテーションの開催について、開催していない館との違いがみられる。このことは、図書館利用教育の計画に、大学（教員）の教育方針が影響することを示している。なおここでのいう教育方針とは、具体的には、大学の初期教育における図書館利用教育（特に「図書館利用方法」）の重点化を指す。

4.3 ガイダンス／オリエンテーション以外の利用教育または利用支援

＜メディアを介して間接的に行う利用教育または利用支援＞

内容は「図書館利用方法」、及び、「情報探索方法」に相当するものを取りあげており、印刷メディアまたは電子メディアによるそれらの情報提供という働きかけの形をとっている。特に、自館利用案内やデータベース等利用マニュアルなどにおいてはガイダンス／オリエンテーションにおいて扱う事項と同様のものがみられるが、Web情報源へのリンク集の提供や図書館利用FAQの提供など、ガイダンス／オリエンテーションにおいては扱うことが少ないが有用な情報をも取りあげている。しかし、やはり教育というよりも情報提供というサービスの面が強いことは否めない。

また直接的ではない分、より時期＝タイミングを考え、計った上で働きかけを行っていると思われる。

＜直接的に行う利用教育または利用支援＞

カウンターにおける個別指導による対応では、内容、及び、方法は個々の学生に合わせたものを取りあげることになる。年間を通して受付、対応しているが、指導件数は少なく、学生への周知は十分にはなされていないとみられる。

5. まとめ

調査・検討の結果、わが国の教員養成大学の附属図書館における図書館利用教育について、次の傾向が導かれた。

- ・図書館利用教育の範囲は、「図書館利用方法」、及び、「情報探索方法」とどまり、教育学に特化した内容、及び、方法は認められない。但し、教員に必要な情報活用能力の育成を見据えた「情報表現方法」をも扱うべきと考える館が複数みられ、現在実施している館も存在する。
- ・図書館利用教育の種別間の関係について、ガイダンス／オリエンテーションにおいては、まず図書館主催のもの内容、及び、方法があり、教員の依頼による開催のものはそれらを基にして展開されている。対してガイダンス／オリエンテーション以外の利用教育または利用支援は、ガイダンス／オリエンテーションの内容、及び、方法と共通の部分もみられるが、必ずしもこれに依拠していない。

謝辞

ご多忙中にもかかわらず、図書館利用教育の実施状況についての聴き取り調査にご協力頂き、非常に丁寧にご回答くださった教員養成大学附属図書館の職員の方々に、ここに記して感謝の意を表します。

参考文献

1) 次の文献がある。

- ・大城善盛，生嶋圭子，村上泰子．大規模大学図書館における利用者教育の実態：平成5年度調査．図書館学会年報．Vol.40，No.4，p.133-144（1994）
- ・村上泰子，大城善盛，生嶋圭子．中規模大学図書館における利用者教育の実態：平成6年度調査．図書館学会年報．Vol.41，No.3/4，p.145-156（1995）
- ・村上泰子，大城善盛，生嶋圭子．小規模大学図書館における利用者教育の実態：平成7年度調査．図書館学会年報．Vol.44，No.1，p.17-31（1998）

2) 次の文献がある。

- ・毛利和弘．利用教育の実情：4年制大学．現代の図書館．Vol.26，No.2，p.116-120（1988）
- ・毛利和弘．利用教育の現状：4年制大学．現代の図書館．Vol.32，No.1，p.64-69（1994）

3) 丸本郁子．大学図書館利用指導実態調査：関西地区において．大阪女学院短期大学紀要．No.18，p.7-31（1987）

4) 日本図書館協会図書館利用教育委員会．“図書館利用教育ガイドライン：大学図書館版”．図書館利用教育ガイドライン合冊版：図書館における情報リテラシー支援サービスのために．日本図書館協会図書館利用教育委員会編．東京，日本図書館協会，2001，p.35-47．